

認知症の人の声をどのように 社会に反映させるのか

認知症フレンドリー社会をつくるための9つのアイデア



1 認知症の人の声を聞く、届けるアイデア

この10年、日本でも認知症の当事者による講演会が各地で開かれ、認知症の人の声を聞くという機運は高まっています。しかし、一方で、認知症の人の多くが、思いやニーズを社会や地域に伝えるチャンネルがないのも事実です。声なき声も含め、声を聞き、届けるためには、今、何が必要なのでしょうか？ 場作り、関係づくり、声のまとめ方などについて考えます。

Guest 佐藤雅彦さん

認知症当事者の会代表
当事者として全国を講演

DAYS BLG! の皆さん

「認知症になっても働きたい」
という思いから町田市で誕生し
たデイサービス

稲垣康次さん

富士宮市役所
認知症施策先進地の取り組みは
当事者の声から始まった

2 社会の仕組みに反映させるアイデア

届けられた認知症の人の声は、政策や企業活動、デザイン、コミュニティーなど、それぞれの文脈で、仕組みに反映させていく必要があります。反映させるためには、どのような方法があるのでしょうか？



田中克明さん

コクヨS&T株式会社
認知症フレンドリーな
商品サービスを開発中

須藤シンジさん

ピープルデザイン研究所
心のバリアを取り除き、障害者
、高齢者、外国人などが
まざりあった社会を提唱

堀田聡子さん

労働政策研究・研修機構
地域包括ケア研究会委員等を務め
諸外国の認知症国家戦略に詳しい



3 取り組みを評価するアイデア

認知症の課題に関心が高まるに連れ、様々な取り組みやビジネスが生まれていくことが予想されますが、本当に認知症の人の暮らしに役立っているのか、しっかり評価をしていく必要がでてきます。取り組みの成果指標には、どのようなものがあるのでしょうか？

岡田誠さん

富士通研究所
認知症の課題に対し、企業が
できることを探索する「認知
症プロジェクト」に取り組む

河野禎之さん

筑波大学大学院
医療ケアなど、認知症への取
り組みの評価を調査研究

Facilitator

徳田雄人
(スマートエイジング/
認知症フレンドシップクラブ)

シンポジウム終了後、18:00～同じ会場で
イブニングセッションを開催予定です(希望者のみ)

認知症
フレンドリー社会



主催 認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ (DFJI)
共催 国際大学GLOCOM社会イノベーションラボ
富士通研究所/コクヨS&T/コクヨRDIセンター
認知症フレンドシップクラブ
協力 大日本印刷ソーシャルイノベーション研究所
平成26年度厚労省老人保健健康増進等事業
「認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業」

日時 7月5日(土) 14:00～17:30
(受付開始13:30～)
場所 二子玉川カタリストBA (ライズオフィスビル8階)
東京都世田谷区玉川2-21-1
申込 DFJIウェブページよりお申し込みください
<http://www.dementia-friendly-japan.jp/>